

政治の ダイナミズム



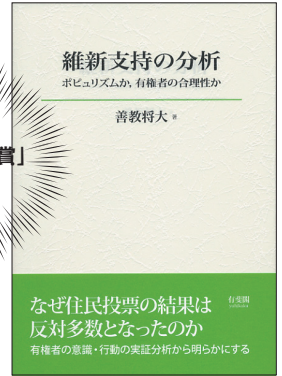
維新支持の分析 -- ポピュリズムか、有権者の合理性か

善教 将大 (関西学院大学准教授) / 著

2018 年 12 月 A 5 判上製カバー付, 272 ページ
定価 4,290 円 (本体 3,900 円) ISBN 978-4-641-14927-4

「大阪維新」の政治について、有権者の維新への支持態度を実証的に分析することによって明らかにする。サーベイ実験などの手法を用いて、維新に扇動された有権者といったポピュリズム論を反証する。また有権者の批判的志向性を見出し、民主主義の可能性を探る。

第 41 回
「サントリー学芸賞」
受賞

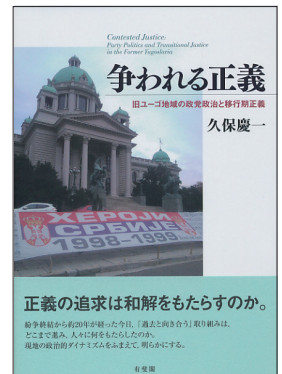


争われる正義 -- 旧ユーゴ地域の政党政治と移行期正義

久保 慶一 (早稲田大学教授) / 著

2019 年 12 月 A 5 判上製カバー付, 290 ページ
定価 4,620 円 (本体 4,200 円) ISBN 978-4-641-14931-1

旧ユーゴ地域では 1990 年代の激しい武力紛争後、2000 年代以降は平和構築が進められてきた。同時に「過去と向き合う」取り組みも推進されたが、それは現在、どこまで進み、人々に何をもたらしたのか。独自のデータも用いつつ現地の政治的ダイナミズムをふまえて分析する。



多機関連携の行政学 -- 事例研究によるアプローチ

伊藤 正次 (首都大学東京教授) / 編

2019 年 2 月 A 5 判並製カバー付, 238 ページ
定価 3,630 円 (本体 3,300 円) ISBN 978-4-641-14929-8

関連する多様な分野の行政機関の連携によって、行政サービスの質の向上を図る「多機関連携」。こうした取り組みは、すでにさまざまな政策領域で進んでいる。そうした各政策領域における連携の実態を明らかにし、それらに共通する特徴や今後の展望を示す。

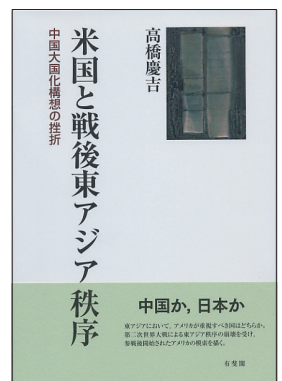


米国と戦後東アジア秩序 -- 中国大国化構想の挫折

高橋 慶吉 (大阪大学准教授) / 著

2019 年 12 月 A 5 判上製カバー付, 298 ページ
定価 4,730 円 (本体 4,300 円) ISBN 978-4-641-14934-2

アメリカが重視すべきなのは、中国か日本か。中国をパートナーに東アジアの秩序管理を行うことを考えていたアメリカは、第二次世界大戦後、日本重視の路線へと、その東アジア政策を転換する。その過程を実証的に分析し、現代アメリカの東アジア政策の起源に迫る。



環境条約交渉の政治学 -- なぜ水俣条約は合意に至ったのか

宇治 梓紗 (京都大学講師) / 著

2019 年 10 月 A 5 判上製カバー付, 256 ページ
定価 5,280 円 (本体 4,800 円) ISBN 978-4-641-14932-8

多くの国が参加し、複数の争点をめぐって議論される条約交渉において、問題解決に効果的な制度と各国が合意可能な制度とを一致させるには、どのような要因が重要なのだろうか。水俣条約交渉の分析を通して、理想的な制度が成立するための要因を明らかにする。





現代大阪経済史 -- 大都市産業集積の軌跡

沢井 実 (南山大学教授・大阪大学名誉教授) / 著

2019年9月 A5判上製カバー付, 340ページ
定価 6,600円 (本体 6,000円) ISBN 978-4-641-16549-6

なぜ地盤沈下は止まらないのか——
戦中・戦後から90年代にかけての大阪経済の歩みをつぶさにたどり、
日本の製造業の行く末、そして日本経済の将来を占う。
大阪経済を支えたものづくり産業の軌跡を追いつつ、
地域経済政策の実態を探究する。



文化と営利 -- 比較経営文化論

安部 悦生 (明治大学教授) / 著

2019年2月 四六判並製カバー付, 486ページ
定価 4,400円 (本体 4,000円) ISBN 978-4-641-16539-7

報酬などをもたらす営利活動や組織の特徴は何か？ 両者の持ちつ持たれつの発展 (共進化) はあるのか？
この問いを明らかにすべく、社会、文化、制度、組織の本質に迫り、宗教、経営者企業、価値観、合理性
などの概念を手掛かりに「皮膚感覚」を取り入れて国際比較を行う。



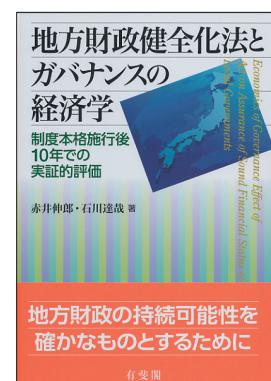
地方財政健全化法とガバナンスの経済学

-- 制度本格施行後10年での実証的評価

赤井 伸郎 (大阪大学教授),
石川 達哉 (大阪大学招へい教授, ニッセイ基礎研究所客員研究員) / 著

2019年7月 A5判並製カバー付, 404ページ
定価 4,180円 (本体 3,800円) ISBN 978-4-641-16545-8

地方財政健全化法の本格施行から10年。
4つの健全化判断比率に基づく現行制度は自治体の財政健全化に寄与したのか？
制度の丁寧な解説とともに、データ・事例の丹念な考察と緻密な実証分析によって、
同法のガバナンス効果を解明し、今後の課題を提示する。



地方債の経済分析

持田 信樹 (東京大学教授), 林 正義 (東京大学教授) / 編

2018年12月 A5判上製カバー付, 272ページ
定価 4,180円 (本体 3,800円)
ISBN 978-4-641-16532-8

2000年代になって地方債発行の制度変更が行われ、国の関与が弱くなりプレーヤーが多様になってきている。
地方自治体、国、投資家、格付会社など多様なステークホルダーの観点から地方債を経済学的に分析し
将来展望を行う、関係者必読の書。



企業の課題と戦略

組織学の生成と展開

岸田 民樹 (名古屋大学名誉教授) / 著

2019年12月 A5判上製カバー付, 376ページ
定価 6,490円 (本体 5,900円) ISBN 978-4-641-16551-9

システム論の視点から人間—組織—環境の相互関係を捉え、Organizing (組織化・組織生成) の理論、Organized (構造化・構造統制) の理論、革新のプロセスの理論として体系化。
著者がライフワークとする、組織学の確立に向けた第一歩。

組織学の生成と展開

岸田民樹

組織「論」を統合し、
組織「学」を提唱する

著者のライフワークというべき
組織学の確立に向けた第一歩。ここに集結

有実堂

日本企業における失敗の研究

-- ダイナミック戦略論による薄型 TV ウォーズの敗因分析

河合 忠彦 (筑波大学名誉教授) / 著

2019年6月 A5判上製カバー付, 354ページ
定価 4,620円 (本体 4,200円) ISBN 978-4-641-16546-5

このまま日本企業は負け続けるのか——当時の状況、経営行動、意思決定過程をドキュメンタリー・タッチで捉え、家電産業における日本企業の敗因を探究。
「ダイナミック戦略能力」の欠如を敗因と認定し、今後のIoT/AI時代への処方箋も提示する渾身作。

日本企業における失敗の研究

ダイナミック戦略論による薄型TVのウォーズの敗因分析

河合忠彦

なぜ日本企業は負けるのか

当時の状況とその敗北への機軸的対症薬をドキュメンタリー・タッチで捉え、家電産業における日本企業の敗因を探究。「ダイナミック戦略能力」と「コネクト・ガバナンス」の欠如を敗因と認定し、今後のIoT/AI時代への処方箋も提示する渾身作。

有実堂

イノベーションを生む“改善”

-- 自動車工場の改善活動と全社の組織設計

岩尾 俊兵 (明治学院大学専任講師) / 著

2019年12月 A5判上製カバー付, 298ページ
定価 4,840円 (本体 4,400円) ISBN 978-4-641-16557-1

日本企業の競争力の源泉ともいわれる改善活動。細かな改良を地道に続けるというイメージは、実態に即したものなのか。現場に入り込む事例研究やシミュレーションをも駆使し、活動の連鎖から大きなイノベーションを創出する可能性と、その条件を探索した意欲作。

イノベーションを生む“改善”

自動車工場の改善活動と全社の組織設計

岩尾俊兵



カイゼンは連鎖する

工場・店舗・本社・顧客・サプライヤーとを目的とする現場の改善活動は、競争力の源泉か、はたまた競争の弱体化要因か。本著では、現場の改善活動がどのように連鎖し、全社を巻き込み、イノベーションを生み出すのかを探究し、その条件を探索した意欲作。

有実堂

小売構造ダイナミクス

-- 消費市場の多様性と小売競争

横山 斉理 (法政大学教授) / 著

2019年2月 A5判上製カバー付, 262ページ
定価 4,180円 (本体 3,800円) ISBN 978-4-641-16544-1

グローバル化し競争が激化する中でも、なぜ日本の食品小売市場でグローバル小売企業は苦戦を強いられるのか。日本の食品スーパーがもつ地域多様性と現場の組織能力による強みを浮き彫りにし、今後の小売構造の行く末を指し示す力作。方法論の解説も充実。

小売構造ダイナミクス

消費市場の多様性と小売競争

横山斉理



なぜ日本の食品スーパーは力強く生き残れるのか

日本の食品小売市場において、グローバル小売企業が苦戦を強いられるのはなぜなのか。日本の食品スーパーがもつ地域多様性と現場の組織能力による強みを浮き彫りにし、今後の小売構造の行く末を指し示す力作。方法論の解説も充実。

有実堂

買物行動と感情

-- 「人」らしさの復権

石淵 順也 (関西学院大学教授) / 著

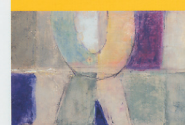
2019年3月 A5判上製カバー付 366ページ
定価 5,060円 (本体 4,600円) ISBN 978-4-641-16543-4

従来の研究に一石を投じ、感情の持つ非合理的側面だけでなく人の認知や合理性を支える側面にも光を当てて買物行動の本質に迫る。実務的含意として、快感情への働きかけが消費者の継続的来店に繋がり、企業と消費者の長期的な関係構築に有用なことを示す。

買物行動と感情

「人」らしさの復権

石淵順也



現実の買物行動をより深く理解するため、従来の研究で見逃されてきた感情の持つ「オウガイザー」(覆われたまなこ)の側面にも光を当て、豊かな消費者像を浮かび上がらせる!

買物行動の本質に迫る。実務的含意として、快感情への働きかけが消費者の継続的来店に繋がり、企業と消費者の長期的な関係構築に有用なことを示す。

有実堂

被災地から 未来を 考える

《シリーズ 被災地から未来を考える》(全3巻) 堂々完結!

船橋 晴俊(元法政大学教授), 田中 重好(尚絅学院大学教授),
長谷川 公一(東北大学教授)／監修

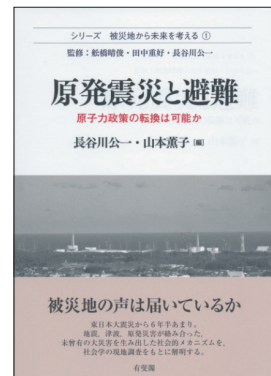
東日本大震災後、コミュニティと自治体の存続、被災者の生活再建など課題は残り続けている。こうした未曾有の社会問題に対し、精力的な現地調査を行ってきた社会学の成果を世に問うシリーズ。

原発震災と避難 -- 原子力政策の転換は可能か

長谷川 公一(東北大学教授), 山本 薫子(首都大学東京准教授)／編

2017年12月 A5判上製カバー付, 300ページ
定価4,620円(本体4,200円) ISBN 978-4-641-17433-7

東日本大震災から8年余り。被災者の生活再建、地域再生、放射能汚染問題の解決の目処は立たず、長期避難者も多い。未曾有の災害を生み出した社会的メカニズムを、社会学の現地調査を基に解明。第1巻は原発事故と避難・生活再建、原子力政策の転換に焦点を当てる。

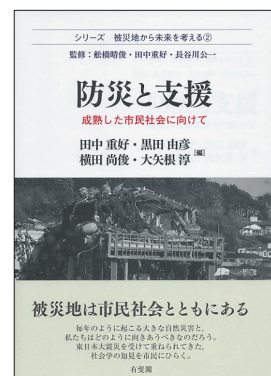


防災と支援 -- 成熟した市民社会に向けて

田中 重好(尚絅学院大学教授), 黒田 由彦(椋山女学園大学教授),
横田 尚俊(山口大学教授), 大矢根 淳(専修大学教授)／編

2019年3月 A5判上製カバー付, 382ページ
定価5,390円(本体4,900円) ISBN 978-4-641-17439-9

「防災」についての考えかたが、転換を迫られている。従来の方法では東日本大震災のような大規模な被災は防げない。従来の想定に基づく対策が、逆に被害を拡大してしまう可能性をふまえて、地域社会がいかに適応していくべきか、社会学の知見で検討する。



震災復興と展望 -- 持続可能な地域社会をめざして

吉野 英岐(岩手県立大学教授), 加藤 眞義(福島大学教授)／編

2019年8月 A5判上製カバー付, 316ページ
定価4,950円(本体4,500円) ISBN 978-4-641-17443-6

誰のための復興か。単なる「復旧」にとどまらない「復興」を成し遂げ、地域社会やコミュニティを持続可能なものにしていくためには何が必要なのか。最終巻である第3巻は「復興」に焦点を当て、現状と課題を整理し、社会の再編のあり方を問う。

